



## スキルアップ研修

7月30日、あじさい会館において「社会福祉協議会が災害ボランティアネットワークに望む災害時の役割と任務」の表題でスキルアップ研修会が行われました。主テーマは、

- + 地域防災計画におけるSSVの位置づけ
- + 災害ボランティアセンターの概要 発災時から閉鎖後の活動まで

社会福祉協議会から講師をお招きして、相模原市の地域防災計画に記載されている災害時の関係機関の連携と役割分担を説明頂きました。具体的には発災時に設置される災害ボランティアセンターが、相模原市社会福祉協議会とSSVが共同で運営されることが確認され、実際に災害ボランティアセンターが設置された令和元年10月の台風19号による水害が発生した際の活動状況等が報告されました。



## スキルアップ研修2

10月29日、あじさい会館においてHUG(避難所運営ゲーム)の研修会を行いました。一通りの体験の後、SSV役員が講師を務められるように講師訓練も実施しています。

## ボランティアセンター立ち上げ講座

5月29日、あじさい会館において相模原市社会福祉協議会との共催で行われました。ピースボート災害支援センターの職員を講師にお招きして、「災害ボランティアセンターとは」の講義と、「ゲームで体験！災害時の困りごとに向き合う」をテーマに実際にニーズとボランティアのマッチング体験を行いました。SSV会員と清新愛の手ネットワークを含めて30名が参加して、各グループに分かれゲーム感覚でマッチング体験ができました。



## 災害ボランティアコーディネーター養成講座

12月3日、市民会館中会議室で行われました。講座内容は、

- \* ハザードマップを活用した地域の防災
- \* 災害ボランティア活動の基礎知識
- \* 災害ボランティア活動の実例報告
- \* 災害ボランティアコーディネーター概要、役割
- \* 災害ボランティアセンターマッチングシミュレーションゲームを使ったグループワーク

参加者の積極的な参加を頂き講座終了後には修了証の授与が行われました。



## 団体会員ご紹介

株式会社ホンマ電機 会長 本間俊三様

弊社は、電気・空調設備の工事やメンテナンスを主な業務として、創業以来間もなく 50 年になります。対象顧客はほとんどが民間事業所です。私が災害ボランティアに関心を持つようになったのは、近くにお住まいでボランティアの先輩安田さんのお誘いでした。地域貢献の意向もあったのかもしれませんが、当時、会の名称は「防災ボランティアネットワーク」でした。目的も防災意識の高揚や啓発だったように思います。他市のボランティアのあり方を知りにつけ、ボランティアセンターの立ち上げは社会福祉協議会が担い、ボランティアはその支援とボランティア活動に特化するのが良いとの結論に至りました。その結果、名称は「災害ボランティアネットワーク」となり、活動も被災地のボランティア活動が柱になったと思われま

す。活動で思い出に残ることは当会ではありませんでしたが、新潟県中越大地震で小千谷市に行ったこと、同じく中越大水害で三条市に床下の泥掻きに行ったこと、東日本大震災で大船渡に行き、瓦礫処理に参加したこと等でした。

当時はまだ元気でした。この年でもうそんなことはできません。今は住んでいる地域のお役を少々やらせていただいております。発災時に何かできることはないかとの質問ですが、わが社には小型発電機が 5~6 台と太陽光発電設備・蓄電装置・蓄電池・照明器具などが揃っています。その際はお役に立つかもしれません。



## インクルーシブ(包摂)防災とは？

障害者や高齢者を含む、あらゆる人やペット等を取り残さない防災という考え方です。

きっかけとなったのは、2015年の3月14日から18日まで、宮城県仙台市で開催された第3回国連防災世界会議です。2011年に日本史上類をみない大災害である、東日本大震災が起これば障害者の死亡率は一般的な死亡率の約2倍、避難生活等の身体的負担による疾病等、災害に関連した災害関連死を見ても、東日本大震災の災害関連死における障害者の割合は24.6%となっています。このような事態を防ぐためには、障害者、高齢者、健常者など、世の中には多様な人が存在し、その人それぞれに適切な防災の方法があることを認識し対策をする必要があります。例えば大分県別府市で確立された「別府モデル」があります。

<https://www.bousai.go.jp/fusuigai/koreisubtyphoonworking/pdf/dai1kai/siryo3.pdf> を参照。

ポイントは、障害者と住民の交流が深まる仕組みです。特に災害時では、障害者や高齢者などの要配慮者の支援は地域ぐるみの支援体制がなくては成り立ちません。

「誰も排除されない、排除しない、排除させない」防災・減災の実現には個人と地域、両方の防災意識が必要不可欠です。SSVでも勉強会をしたいところです。(防災士 倉島勝治)

(具体的な数字)

東北3県の人口2401955人のうち18829人が亡くなっており、東北3県での人口の死亡率が0.78%であるのに対し、障害者(障害者手帳所有者)は人口115859人のうち1658人が亡くなり、死亡率は1.43%です。

障害者の死亡率は一般的な死亡率の約2倍です。

過去の国連防災世界会議はすべて日本で行われ1994年横浜 2005年神戸 2011年仙台です。

## みんないいひと体験講座

10月28日、小山中学校において出前講座を行いました。学校側からの要望もあり、初めてHUG(避難所運営ゲーム)のショートバージョンで実施しました。

限られた時間内ながら生徒たちにゲームを通じて災害時に起きる色々な問題点を体験してもらうことが出来ました。



## 災害時相互協力連絡会議

2月12日、あじさい会館において市社会福祉協議会との共催で表記連絡会議が行われました。相模原市地域包括ケア推進課、緊急対策課、相模原青年会議所、津久井青年会議所、神奈川県生活協同組合ユウコープ、清新愛の手ネットワーク、さがみはら国際交流ラウンジ、相模原市赤十字奉仕団等の団体をお招きして、各団体の防災関連活動の紹介の後、災害時に相互協力出来るように情報交換しました。また令和5年相模原市総合防災訓練(九都県市合同防災訓練)においてSSVブースにおける協力をお願いしました。

## 相模原市総合防災訓練

9月4日、相模総合補給廠一部返還地で行われた市の防災訓練に参加しました。

SSVは以下の活動を行いました。

1)災害ボランティアセンターの設置運営訓練、ボランティアの派遣訓練

- ・大規模災害が発生したという想定で災害ボランティアセンターの設置運営訓練
- ・会場に集合したボランティアを受け入れてニーズとのマッチングを行う

2)ボランティア活動訓練

- ・物資配給訓練として給水所においてペットボトの配布

3)災害ボランティア活動の展示

- ・災害ボランティア訓練のテント内で資料展示

この中で中心になった活動は、市民訓練に参加する各自治会の自主防災隊に当テントに立ち寄り、災害ボランティアセンターからの派遣と見立て、市民訓練の前後に参加報告及び帰庁報告をしてもらいました。参加報告時にはセンターから活動指示書を手渡し、ニーズとのマッチングを見立てた訓練になりました。約一時間半の訓練時間に八つの自主防災隊の代表者が当テントに来場され、熱心な参加を頂きました。



### **【編集後記】**

長く続いたコロナ渦もようやく下火になり、少しずつですが活動が出来るようになって来ました。これから防災・減災のための活動を行っていきます。

皆様の参加をお待ちしています。(文責 越山滋雄)

**連絡先・お問合せ先メール:**

**ssvn00000info@gmail.com**